

# 平成27年度作業療法推進パイロット助成事業報告

児童発達支援における作業療法的視点の啓発と広報  
～アイデア集作成とその活用を通して～

一般社団法人鹿児島県作業療法士協会  
発達支援K-OTチーム(のびサポ)

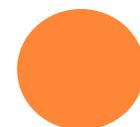


## 【背景】

- ・療育とは何らかの障害を抱えている子どもに対して、その成長や発達段階に応じて提供する適切な医学的側面と教育的側面の調和のとれたサービスである。
- ・現在、就学前の発達障害児の療育において、児童発達支援（児童発達支援センターおよび児童発達支援事業）が重要な拠点となっている。
- ・鹿児島県には127か所の児童発達支援があり、ここ5年間で急激に増加している。増加によって発達障害児とその家族が利用しやすいといった利点はある一方、療育内容の質が問われている。



- ・平成24年に鹿児島県作業療法士協会において、児童発達支援への作業療法支援を実施するために「**発達支援 K-OTチーム(のびサポ)**」を発足させた。



# 児童発達支援

## 身近な地域で質の高い支援を必要とする子どもが療育を受けられる場を提供

### ○ 対象児童

法 身体に障害のある児童、知的障害のある児童又は精神に障害のある児童（発達障害児を含む）

※手帳の有無は問わず、児童相談所、医師等により療育の必要性が認められた児童も対象

- ・ 3障害対応を目指す、障害の特性に応じた支援の提供も可能

### ○ 定員

定員10人以上（※主として重症心身障害児を対象とした児童発達支援事業の場合は5人以上）

### ○ 提供するサービス

【福祉型児童発達センター、児童発達支援事業】

法 日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練その他の厚生労働省令で定める便宜を供与（これを児童発達支援という。）

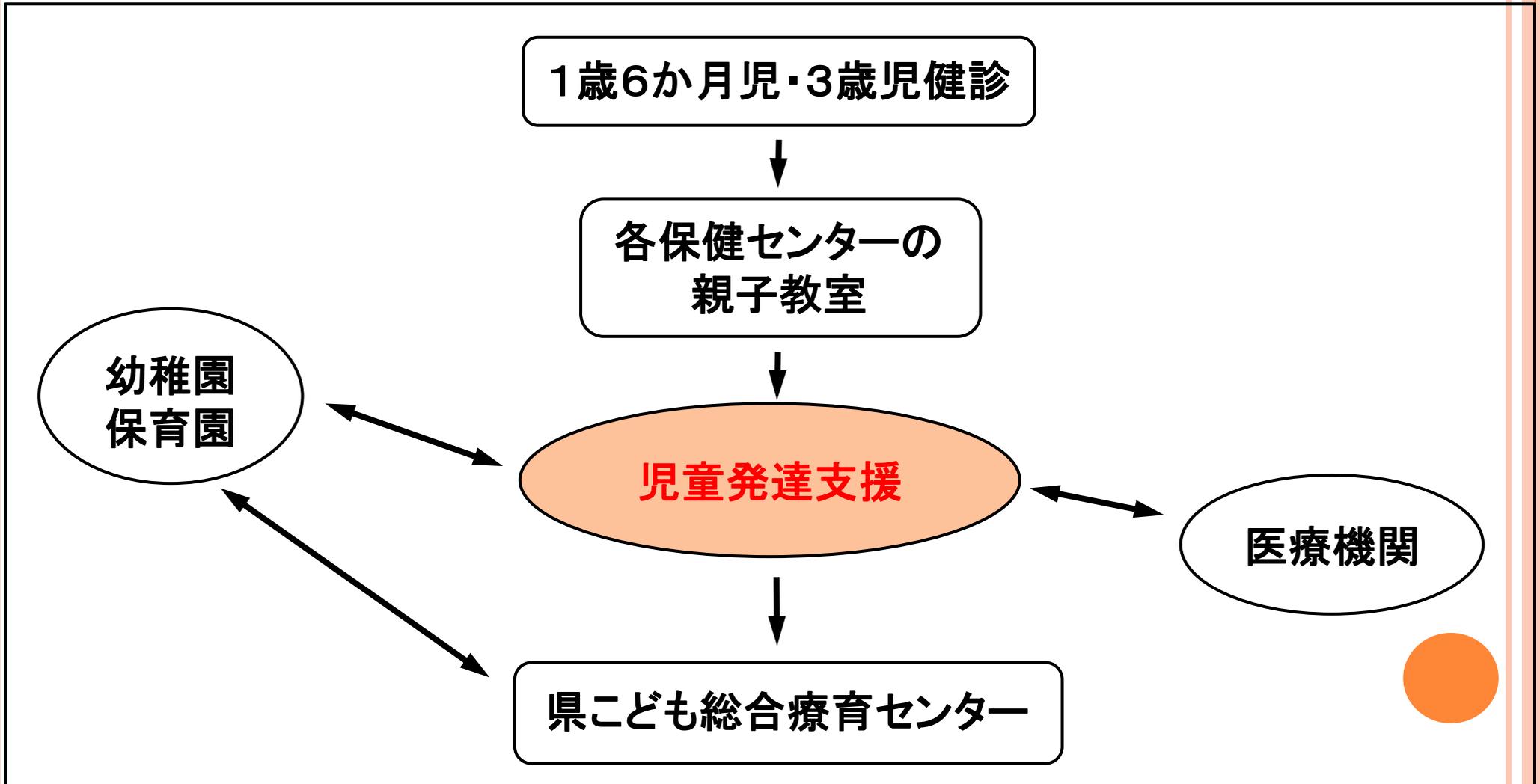
【医療型児童発達センター】

法 児童発達支援及び治療を提供

法 障害の特性に応じて提供

# 発達障害児の早期支援

## 鹿児島県における支援の流れ



# 鹿児島県の児童発達支援数



＜北薩＞  
◎ 3か所  
○ 6か所

＜鹿児島島＞  
◎ 11か所  
○ 57か所

＜南薩＞  
◎ 3か所  
○ 6か所

＜始良＞  
◎ 3か所  
○ 14か所

＜大隅＞  
◎ 1か所  
○ 12か所

＜離島＞  
◎ 2か所  
○ 9か所

＜総数＞  
◎児童発達支援センター：23か所  
○児童発達支援事業所：104か所  
\*H27年6月時点

## 【目的】

- ① 児童発達支援に作業療法的視点の有益性を知ってもらう（作業療法の啓発と広報）
- ② 「作業療法士が考える『生活動作』と『遊び』のアイデア集」を作成し、児童発達支援の現場に利用してもらう
- ③ 他職種との意見交換を通して、発達障害児の地域支援を行うためのスキルを学ぶ



# 【方法】

## (1) 対象

- ・鹿児島県内の児童発達支援の職員
- ・鹿児島県作業療法士協会所属の作業療法士

## (2) 方法

- ・平成24年～27年度の4か年のロードマップを作成し、その計画をもとに事業を実施した(図)。
- ・事業内容は・・・

- ①鹿児島県の各地域での研修会の実施
  - ②研修会後のアンケートの実施
  - ③アイディア集の作成
- である。



# <H24年～27年度のロードマップ>

4  
年  
計  
画

H24年

研修会  
アンケート

- ・児童発達支援の現状を知る
- ・児童発達支援におけるOTの役割を考える

H25年

研修会  
アンケート

- ・児童発達支援の現場にOTを知ってもらう
- ・子どもの「生活動作」と「遊び」を考えよう

H26年

研修会  
アンケート

- ・「生活動作」と「遊び」のアイデアを収集
- ・「生活動作」と「遊び」の支援方法の提案

H27年

研修会  
アンケート  
アイデア集

- ・「生活動作」と「遊び」の研修会の実施
- ・アイデア集の作成

パイロット  
助成事業

「作業療法士が考える『生活動作』と  
『遊び』のアイデア集」 完成

# 【結果】

## (1) 研修会の実施

- ・平成24年～27年度の4か年において、**計11回の研修会**を実施した(H24年度-2回、H25年度-2回、H26年度-2回、H27年度-5回)。参加者の総数は**延べ681名(他職種404名、OT277名)**であった(表)。
- ・平成27年度は**鹿児島県内5つの地域**(南薩地区、北薩地区、始良地区、大隅地区、鹿児島地区)において、実施した。参加者の総数は**延べ254名(他職種156名、OT98名)**であった。



## ～全研修会の概要(全11回)～

日時	開催地域	テーマ	参加者数 総数(他職種/OT)
H24年度 ① 7月15日	鹿児島地区	児童発達支援の概要と作業療法の関わり①	36(—/36)
② 11月25日	鹿児島地区	児童発達支援の概要と作業療法の関わり②	25(—/25)
H25年度 ① 8月18日	鹿児島地区	児童発達支援における遊びを考えよう	115(83/32)
② 2月1日	鹿児島地区	子どもの生活動作を考えよう ～基礎編と実践編～	93(63/30)
H26年度 ① 8月17日	鹿児島地区	生活動作や遊びの作業療法士視点を 集めよう	24(—/24)
② 2月1日	鹿児島地区	作業療法士による「遊び」と「生活動作」 の実演・伝達会	134(102/32)
H27年度 ① 8月23日	南薩地区	作業療法士による「遊び」と「生活動作」 の実演・伝達会 in南薩	29(12/17)
② 9月13日	北薩地区	作業療法士による「遊び」と「生活動作」 の実演・伝達会 in北薩	42(24/18)
③ 11月1日	始良地区	作業療法士による「遊び」と「生活動作」 の実演・伝達会 in始良	51(36/15)
④ 12月20日	大隅地区	作業療法士による「遊び」と「生活動作」 の実演・伝達会 in大隅	44(28/16)
⑤ 2月21日	鹿児島地区	作業療法士による「遊び」と「生活動作」 の実演・伝達会 in鹿児島	88(56/32)

# \* 平成27年度の事業を報告する

## <研修会-H27年度1回目>

1) テーマ： 作業療法士による「遊び」と「生活動作」の実演・伝達会 in南薩

内容：「生活動作のアイデア」

①生活動作について(総論)

②上手にお着替えができるようになるために

③歯磨きが上手になろう

「遊びのアイデア」

①シーツ遊び

②電池ロボット

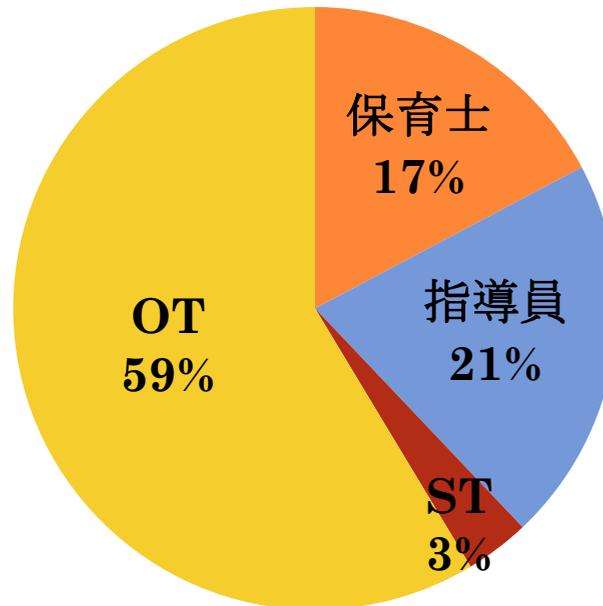
③そうじき遊び

2) 開催日時： 平成27年8月23日午前9時30分～午後12時30分

3)開催地域:南薩地区

4)参加者:①参加者数 29名

参加者の職種



上手にお着替え  
できるようになるために



そうじき遊び



## <研修会- H27年度2回目>

1) テーマ: 作業療法士による「遊び」と「生活動作」の実演・  
伝達会 in北薩

内容 : 「生活動作のアイデア」

①生活動作について(総論)

②楽しく食べるために

③トイレで排泄ができるようになろう

「遊びのアイデア」

①新聞紙遊び

②大積み木遊び

③段ボール遊び

2) 開催日時: 平成27年9月13日午前10時～午後12時

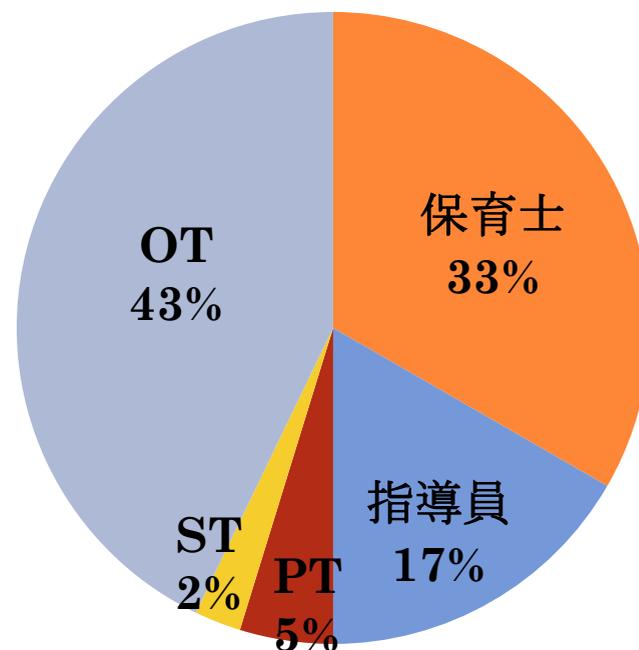


3) 開催地域: 北薩地区

4) 参加者: ①参加者数 42名



参加者の職種



## <研修会- H27年度3回目>

1) テーマ: 作業療法士による「遊び」と「生活動作」の実演・  
伝達会 in 始良

内容 : 「生活動作のアイデア」

①生活動作について(総論)

②ボタン・チャックを身に付けよう

③自然と身に付けよう! 顔や手の洗い方

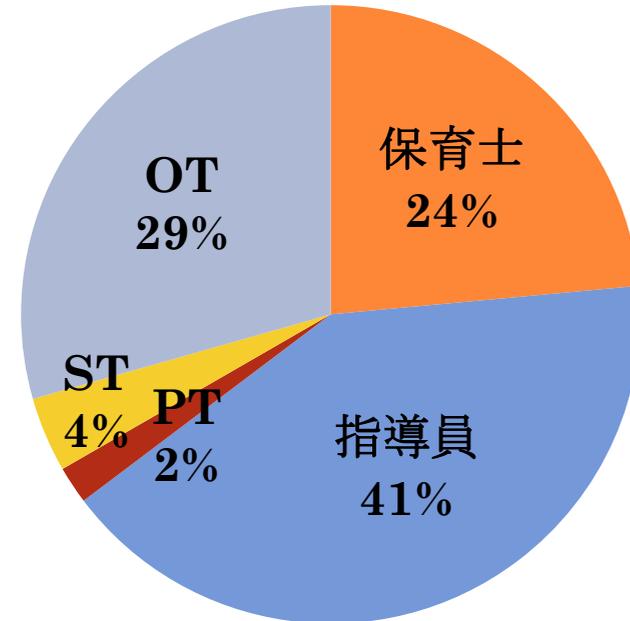
「遊びのアイデア」

子どもの遊びと発達

2) 開催日時: 平成27年11月1日午前9時30分~午後12時30分



## 参加者の職種



3)開催地域: 始良地区

4)参加者: ①参加者数 51名

生活動作について  
～作業療法士の視点から～



ボタン・チャックを身に付けよう



## <研修会- H27年度4回目>

1) テーマ: 作業療法士による「遊び」と「生活動作」の実演・伝達会 in大隅

内容 : 「生活動作のアイデア」

①生活動作について(総論)

②楽しく食べるために

③トイレで排泄ができるようになるろう

「遊びのアイデア」

①新聞紙遊び

②大積み木遊び

③段ボール遊び

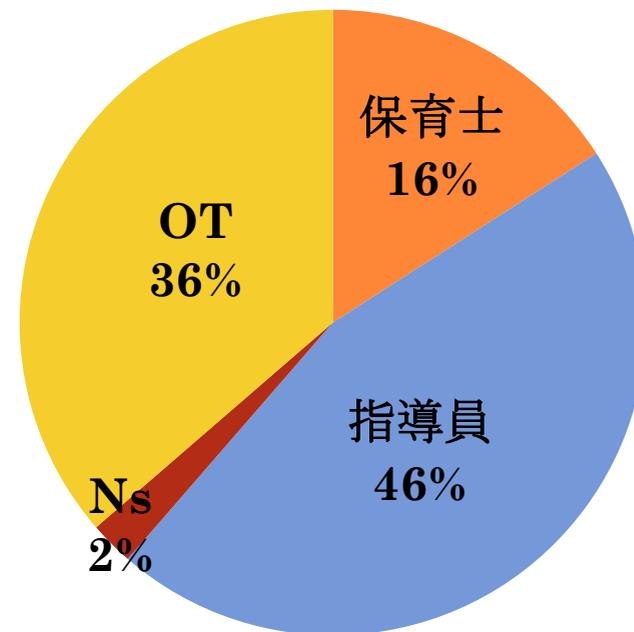
2) 開催日時: 平成27年12月20日午前10時～午後12時



3) 開催地域: 大隅地区

4) 参加者: ①参加者数 44名

参加者の職種



## <研修会- H27年度5回目>

### 1)テーマ： 作業療法士による「遊び」と「生活動作」の実演・ 伝達会 in鹿児島

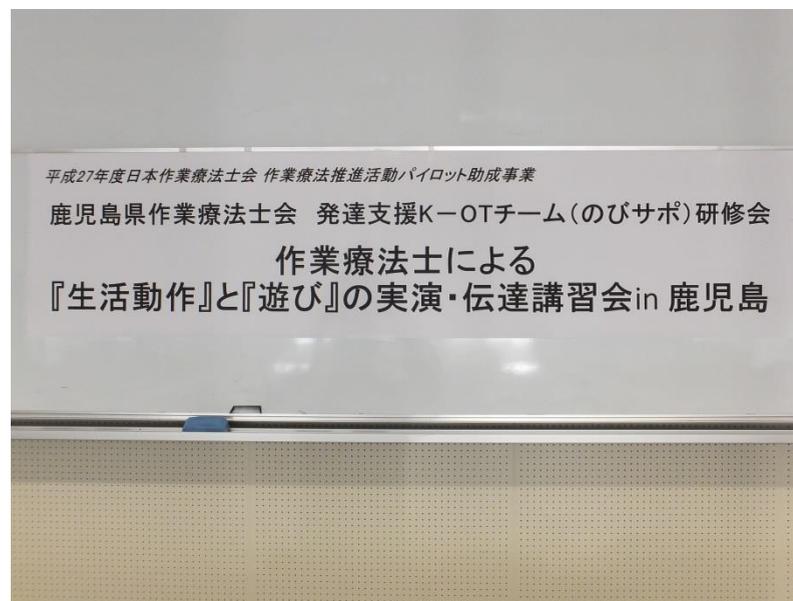
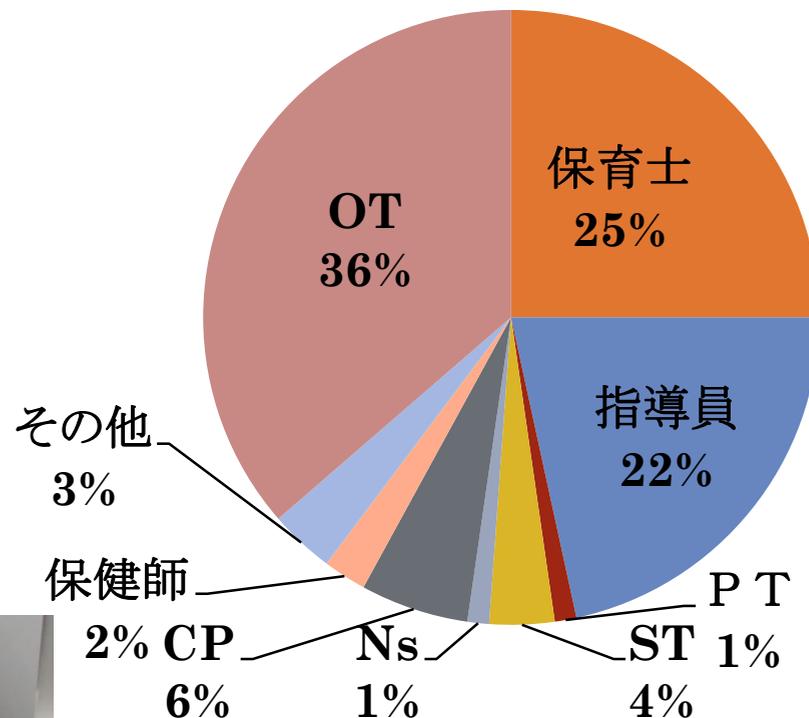
- 内容：「子どもの気になる行動の理解と対応  
～作業療法士の視点から～」
- 「正常発達から見る運動と遊びのポイント」
- 「生活動作のアイデア」
- ①楽しく食べるために
  - ②トイレで排泄ができるようになる
  - ③上手にお着替えができるために
  - ④ボタン・チャックを身に付けよう
- 「遊びのアイデア」
- ①シーツ遊び
  - ②新聞紙遊び
  - ③そうじき遊び
  - ④段ボール遊び

2) 開催日時:平成28年2月21日  
午前9時30分～午後4時

3) 開催地域:鹿児島市

4) 参加者:①参加者数 88名

## 参加者の職種



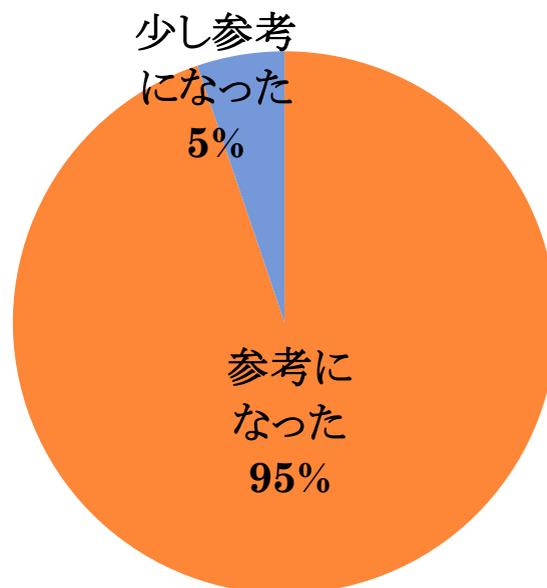
## (2) アンケートの実施(H27年度1回～5回)

1) 回答数:173名(有効回答率 68.1%)

### 2) 研修会の感想及び意見

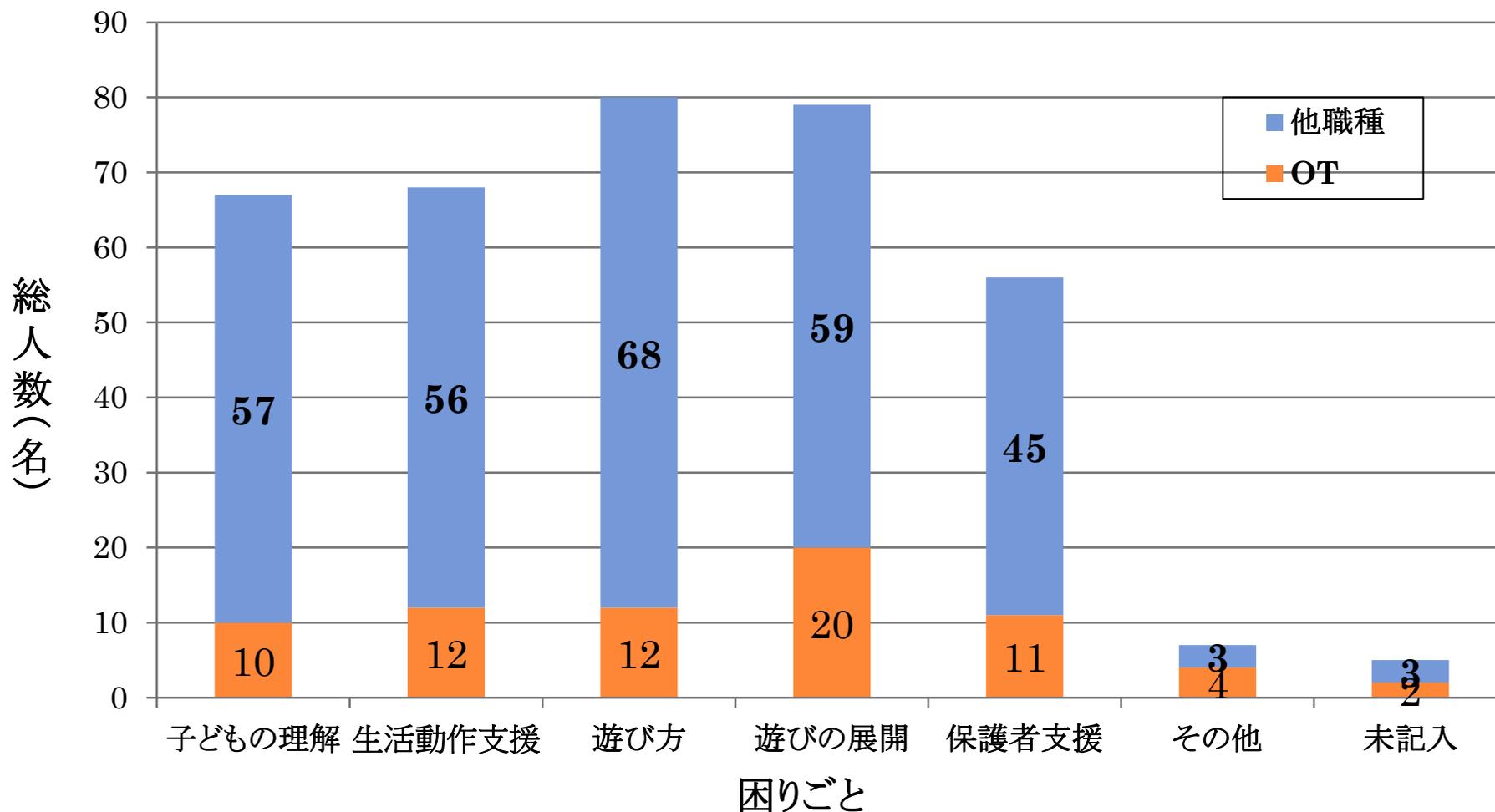
#### ① 参考になる度合い

- ・参考になった 164名
- ・あまり参考にならなかった 0名
- ・少し参考になった 9名
- ・参考にならなかった 0名



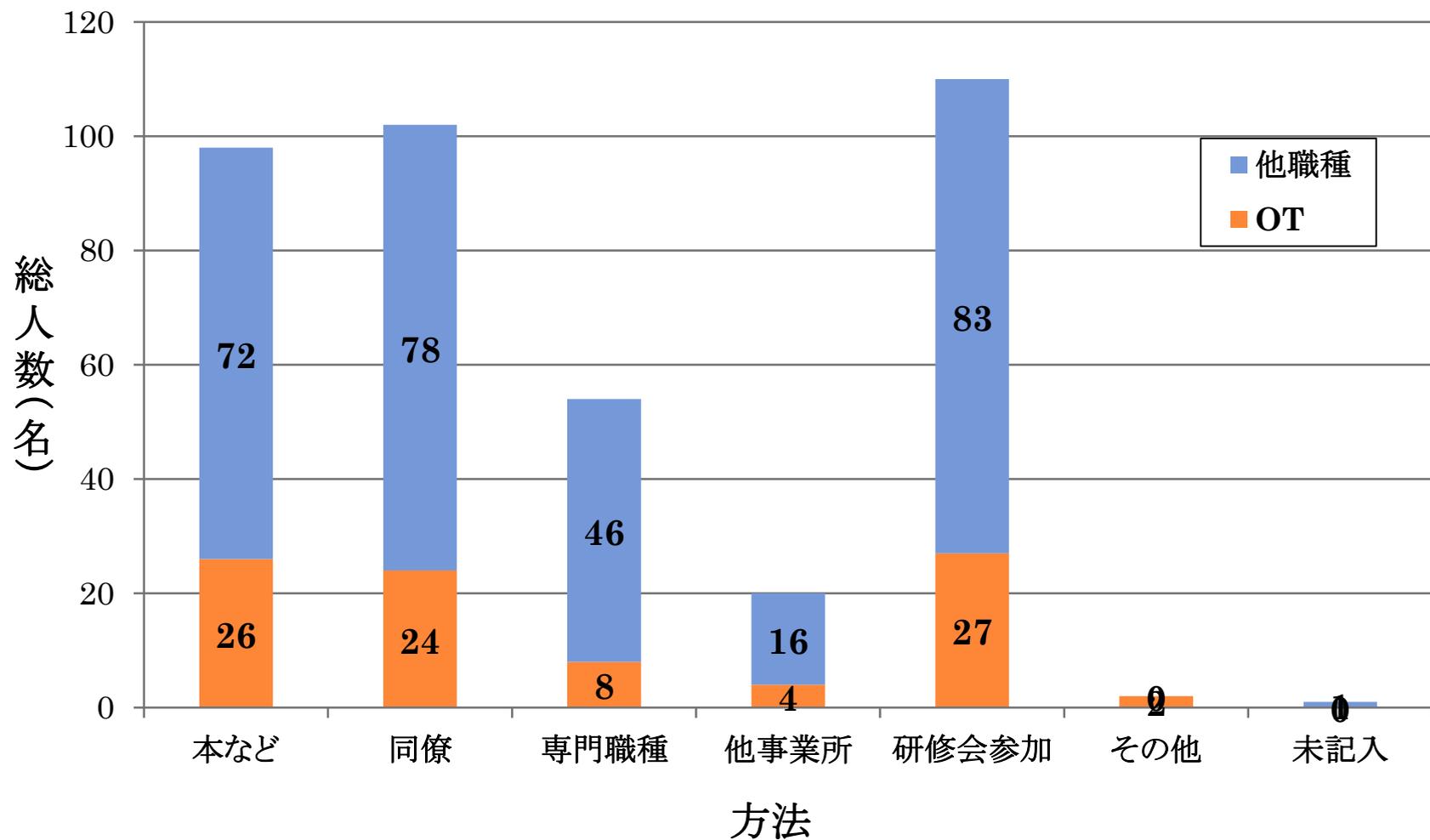
## ② 普段の臨床で「困っていること」(複数回答)

- ・「遊び方」「遊びの展開」が多く(22%)、次いで「生活動作支援」(19%)であった。他に「子どもの理解」「保護者支援」があげられた。



### ③ 困り感を解消する方法(複数回答)

- ・「研修会参加」が最も多く(28%)、次いで「同僚」(26%)、「本など」(25%)であった。



## ④研修会の感想および意見（自由記載）

### <遊びについて>

- ・療育ですぐに**実践できそうな内容**だったので良かった。
- ・**家庭でもできる遊び**が多く、保護者に紹介できるので良かった。
- ・**実演があり**わかりやすかった。一つの遊びからいくつもの遊びにも展開することが大切だと思った。
- ・具体的に遊びを提供する側の視点、内容の考え方を学ぶことができた。
- ・**生活につながる遊び**を知れて良かった。
- ・遊びのねらいから準備する物、うまくいくコツ、注意点などわかりやすかった。 など



## <生活動作について>

- ・実際に園にいる子どもの現状と重なる部分もあり、課題解決の道筋が見えた。
- ・普段、自分たちが取り入れている**遊びを少し工夫するだけで生活動作のトレーニングになる**ということがわかった。
- ・現場での困り感と重なっていたので、**支援のポイント**と考え方、悩みが共感を得やすかった。
- ・**保護者への教え方**も知ることができた。
- ・食事や排泄、整容について知ることができて、今後の支援の参考になった。
- ・明日から使えるような**具体的な例**が沢山あったので、すごくわかりやすかった。 など



## ⑤ 今後の研修会で知りたいこと (自由記載)

- ・遊びが子どもたちの気になる部分にどう作用して、どうそこを伸ばしていったらあげられるのかを知りたい。
- ・年齢や発達に応じた遊びの工夫、遊び方や声掛け、支援の方法を知りたい。
- ・活動の「導入⇒展開⇒終わり」の流れの指導案のようなものを学習したい。
- ・療育について専門の教育を受けたことが無く、日々の活動の中で先輩職員やOTなどに聞いて学んでいる。このような研修を数多く受けたい。
- ・事例検討を取り入れて、OTがどのような遊びや生活の支援を考え出すのかを知りたい。
- ・母子通園における保護者支援についてOTの話を聞いてみたい。 など



### 3) アンケート結果のまとめ

- ・参考になる度合いでは「参考になった」が95%と高い割合を示した。
- ・普段の療育の中での困りごとでは、「遊び方」「遊びの展開」、「生活動作支援」が多く、他に「子どもの理解」「保護者支援」もあげられた。
- ・困りごとを解消する方法では、「研修会参加」が最も多かった。
- ・自由記載では・・・
  - 遊びにおいて、「すぐに実践できる」「生活に結び付く」「家庭でもできる」内容に関心が高かった。
  - 生活動作において、「支援のポイント」「遊びとのつながり」「保護者への教え方」に関心が高かった。
  - 実演(具体的な例)を取り入れたことが好評であった。



### (3) アイディア集の作成

- ・「作業療法士が考える『生活動作』と『遊び』のアイディア集」を作成した(700部)。
- ・アイディア集の内容は・・・
  - ①生活動作7項目を取り上げ、『できるようにするために』必要な4つのポイント:「このような姿は見ませんか?」「できるようには(発達的な視点)!」「こんな視点、工夫がよいかも」「役立つ遊びやアイテム」を提示した。
  - ②遊び13種類を取り上げ、『上手に遊べるために』必要な4つのポイント:「遊び方」「使い方エトセトラ」「こんな子どもにおすすめ」「遊びが上手いくコツ」を提示した。





# ＜生活動作の一例＞



## トイレで排泄ができるようになるろう

……このような姿は見ませんか？……

トイレに入れない  
トイレ以外でウンチを  
してしまう



便座に座れない  
座るけど用をたせない

お尻を上手く拭けない  
トイレットペーパーを  
ちぎったり、たたむこ  
とができない

上手く座って力めない  
便座で落ちそうになる

……できるためには(発達の視点)！……

- トイレットトレーニングのスタートは①一人で歩けるようになる②言葉がわかり、少し話ができる③おしっこの間隔が少しあく時期(1歳半～2歳半)がよいでしょう。
- はじめは、無理やりトイレに誘わず、おしっこがたまっていそうなき(約2時間おき)に誘ってみましょう。失敗することがありますが、叱らず、大目にみましょう。
- 補助便座などに座れるようになったら、踏み台があることで安心して座ったり、前かがみで力みやすくなります。
- お尻を拭くことは、体の後ろ(お尻の穴)に意識を向ける行為です。体の後ろを意識させることも必要となります。

……こんな視点、工夫がよいかも……



### 工夫① トイレに入れるようになるろう

- 時間を決めて誘導しますが、遊びに夢中なときはひと段落したり、次の活動に移るときに誘ってみましょう。
- トイレを嫌がる場合は、トイレに入って便器に座りたくなるような、楽しいグッズを準備してもよいでしょう。

### 工夫② 用をたすために安心して便座に座ろう

- 安心して座れるように、補助便座や足台を準備しましょう。座る姿勢が安定していることは上手く力むことに繋がります。
- 夏や冬は特に便座の肌触りが嫌になることがあります。肌触りの良い便座シートなどを利用しましょう。



### 工夫③ 上手に力めるようになるろう

- 足台に足裏が設置できる高さに調整しましょう。
- 足台は、やや前方の方が、前かがみになって体重を乗せて安定して力むことができます。
- おなかに力を入れる練習もしてみましょう。

### 工夫④ 自分でお尻を拭けるようになるろう

- お尻の穴の位置がわかるように、体の後ろに意識が向く遊びを取り入れましょう(しっぽ取りゲームなど)。
- はじめは、きれいに畳んだペーパーを準備しておくことで拭いた感じがわかりやすくなります。



### 工夫⑤ トイレットペーパーを上手くちぎろう

- ペーパーホルダーに手形を付けると、うまく押さえて切ることができます。
- 上手くたためないときは、膝の上で二つ折りにできる練習をしましょう。

……役立つ遊びやアイテム……

- ロディー(馬のおもちゃ)での遊びは、体の安定や和式便器に座ることに繋がります。
- 吹き矢で遊んだり、口で拭いてフーフーサッカーをしてみよう！(力み方がわかります)
- お尻や背中などの体の各部位へのシール遊びをしてみよう！(体の後ろを意識できます)



# <遊びの一例>

## 電池ロボット遊び

### 《遊び方》

#### 基本ルール

電池に見立てたお手玉等を頭の上に寄せ、落とさないようにする遊びです。

感覚  
おととつ

姿勢  
ゆっくり!  
ゆっくり!



①頭の上にお手玉を寄せ、落とさないように歩きましょう。

注意  
足元に注意!

対人  
人にぶつからないように!

対人  
誰か助けて…。

ピタッ



②頭のお手玉が落ちた人は、その場で動けなくなります。

対人  
今、助けるからね



姿勢  
そおと

かのコントロール  
優しく! 優しく

③動ける誰かに、落としたりお手玉を拾い頭の上に乗せてもらうと、また自由に動けるようになります。

#### 用意するもの

- お手玉またはその代わりになるもの

#### 遊びのねらい

- 体の動きや位置を知る
- 姿勢を保つ
- バランスをとる力を育む
- 力加減を調整する
- 注目する力を養う
- 他者を意識する

### 《使い方エトセトラ》

- お手玉等を頭に寄せた状態で一本橋を渡ったり中腰やハイハイ等、姿勢を変えながら取り組みましょう。



### 《こんな子どもにおすすめ》

落ち着きがない

集中力が続かない



注意が向きのくい

### 《遊びが上手いくコツ》

- お手玉の大きさや重さを調整することで、落ちにくさを調整しましょう。輪投げ遊びの輪なら、更に落ちにくくなります。
- 障害物のない広い空間だけでなく、徐々に障害物を増やしたりゲーム要素を取り入れましょう。
- ペアやチームを決めると、より他者への意識が強まります。

## 【成果の公表】

- ・アイデア集を鹿児島県内の児童発達支援(児童発達支援センターおよび児童発達支援事業所)などに無料で配布した。
- ・アイデア集を鹿児島県作業療法士協会のホームページでPDFにて掲載し、外部からダウンロードできるようにした。  
鹿児島県OTホームページ: <http://kagoshima-ot.jp/category/news/useful/>
- ・第50回日本作業療法学会(札幌市:H28.9/9~9/11)において、「児童発達支援事業における作業療法的視点の有益性について~啓発活動の実施状況および研修会のアンケート結果報告を含めて~」という演題で報告した。



## 【まとめ】

- ・児童発達支援の職員は保育士、児童指導員が多く、教育・福祉的側面からのアプローチが主である。しかし、発達障害児を支援していくには、教育・福祉的側面からだけでなく、医療的側面からのアプローチが必要である。
- ・本事業は、作業療法は「発達障害児に起こりうる生活の中での問題の原因を分析し、具体的な対応方法を提示することができる」「遊びを発達と関連させて説明し、具体的に提示することができる」ことを示したものである。



- ・児童発達支援における作業療法的視点の導入が、発達障害児の発達支援に有益となる可能性を持つものと考えられた。
- ・児童発達支援における4か年の事業は、平成27年度で終了したが、平成28年度以降も幼児期発達障害児の療育拠点である児童発達支援への作業療法支援を継続していく。



# パイロット助成事業実施メンバー

## \* 鹿児島県作業療法士協会 発達支援K-OTチーム

鹿児島大学医学部保健学科	井上 和博
鹿児島県こども総合療育センター	峯戸松 衛
鹿児島県こども総合療育センター	中村 侑司
鹿児島市立病院	渡辺 貴子
大口病院	池田 博俊
菊野病院	始良 章子
クオラリハビリテーション病院	久保園 瞳
福田病院	福留 さおり
やまびこ医療福祉センター	先成 聖
やまびこ医療福祉センター	矢野 大輔
自宅	大野 ひとみ
自宅	川路 由里子
自宅	橋元 絵里香

